

- ・訪日外国人旅行者の増加にもかかわらず、無料公衆無線LANが十分に整備されていないことから、スマートフォンやタブレット端末がインターネットにつながらず、観光情報が入手できないことに対する不満の声があがっています。

#### 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・本県が訪日外国人観光客の通過点となっているという状況にあることから、外国人旅行者を対象とした、県内を観光ルートとするツアーに向けた取組が必要となります。
- ・外国語版観光ホームページについては今後多くの外国人が千葉県を訪れる見込みであることから、この機会に一層の周知に向けて取組んでいく必要があります。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、国内外から多くの人々が本県を訪れると予測されることから、訪日外国人旅行者を訴求する広域ルートの形成を促進するとともに、本県を訪れた人が快適に過ごせる環境を整備する必要があります。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持っている方々に、千葉の魅力を戦略的にPRし、本県へのMICE誘致に繋げていく必要があります。
- ・外国人観光客の利便性を向上させ、千葉の観光地としての魅力を高めるため、無料公衆無線LANの活用をはじめとするモバイル端末利用の整備促進を図る必要があります。

#### 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・外国人旅行者を対象にツアー参加者を募集している事業者向けに、県内のモニターツアーを継続していきます。
- ・今後も一都三県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）で連携した広域ルートの形成により、千葉県の観光PRに努めます。
- ・観光ウェブサイトの一層の周知に向けた取組を行い、アクセス数を高めるため、リニューアル後に新設したFacebookページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く発信するとともに、プロモーションの度にウェブサイトをPRし、周知拡大を図っていきます。
- ・MICEの誘致については、CCBをはじめ関係機関との連携の強化を図り、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。
- ・無料公衆無線LAN環境の整備の促進のため、市町村や宿泊施設に対する公衆無線LAN環境の整備に対する経費の3分の2の補助を行います。

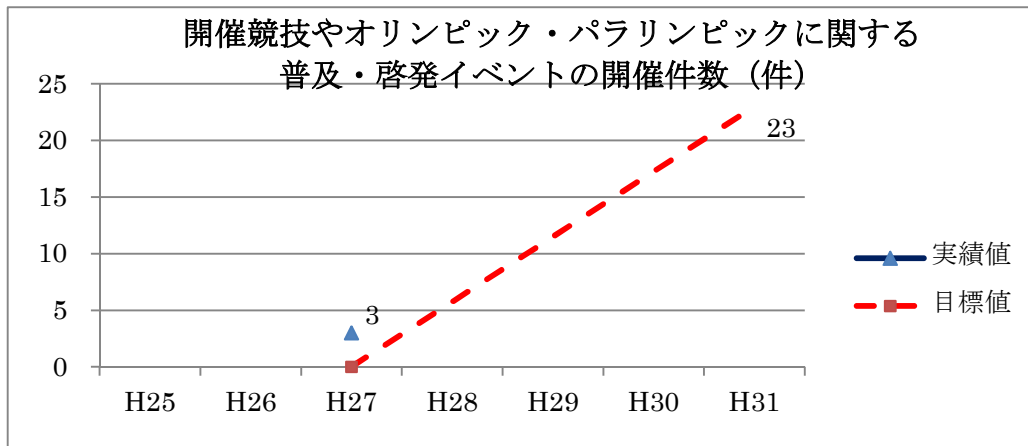
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		開催競技やオリンピック・パラリンピックに関する普及・啓発イベントの開催件数（累計）					（単位：件）	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課	
—	—	— (3)					23		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		①大会の成功・開催効果の全県への波及



## 【主な実施事項と成果】

- 幕張メッセで開催されるオリンピック3競技について普及・振興を図るため、大型商業施設でフェンシング及びテコンドーの普及イベント（各1回）を開催したほか、県立高校体育館でレスリング教室（1回）を開催しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- パラリンピック競技については、オリンピック競技より認知度が低いため、競技への理解・関心を高める必要があります。また、障害者スポーツ全体の競技人口が少ないため、普及・啓発活動を実施するに当たり、アスリートやスタッフ等競技団体の体制が、オリンピック競技と比較して整っていない状況です。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- 本県で開催されるパラリンピック4競技をはじめ、障害者スポーツ全体についての理解・関心を高めるため、「する・みる・ささえる」のそれぞれの観点から、学校や地域社会において、体験会やアスリートとの交流会の実施、障害者スポーツ大会の開催、指導者の養成に取り組む必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 学校や地域において、障害のある人とない人が共に参加し、パラリンピック競技や障害者スポーツに触れることのできる体験会や交流会を、市町村や競技団体、大学等と連携して実施します。
- 教職員や地域スポーツクラブの指導者等を対象として、障害者スポーツへの理解を促進するための研修を実施し、障害のある人とない人が共に学校や地域でスポーツに親しむことができるよう、指導者の育成を図ります。

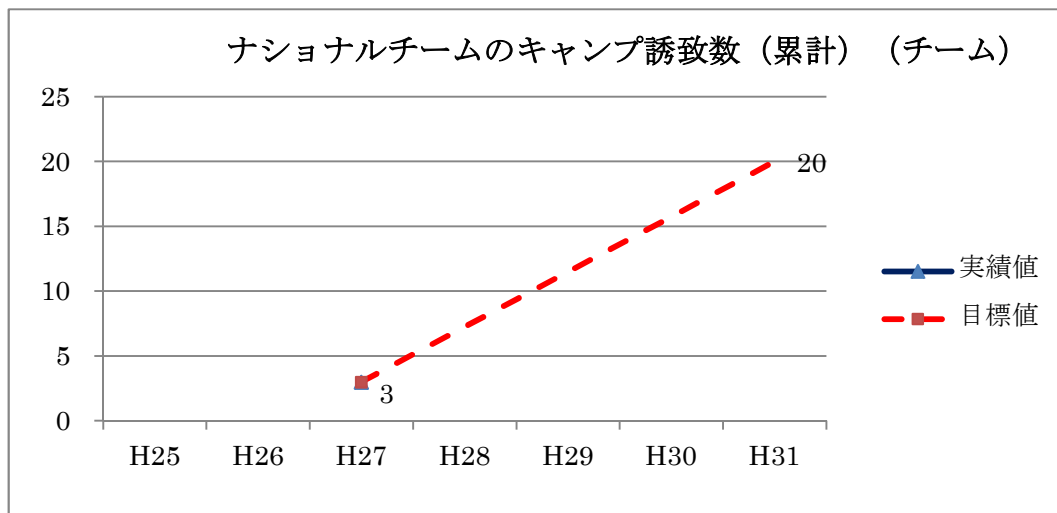
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		ナショナルチームのキャンプ誘致数 (累計) (単位：チーム)					目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課
—	—	3					20	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## 【主な実施事項と成果】

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致を見据え、世界陸上北京大会におけるアメリカ、オランダ、ベルギー3か国の事前キャンプ受入を実施し、各国から高い評価を得ることができました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・キャンプ誘致のためには、各国・チームのニーズを的確に把握し、競技施設だけでなく、宿泊・医療・リラクゼーションなどを組み合わせたパッケージとして提案することが求められています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・単独の市町村では、キャンプに必要な条件をパッケージとして整えることが難しい場合があるため、誘致の意向のある市町村や大学等と連携して、地域が一体となって取り組む必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・スポーツコンシェルジュを活用して、キャンプ実施に関連する県内の情報を収集し、積極的に発信していく等、キャンプ地としての本県の魅力をPRしていきます。
- ・昨年度実施した世界陸上北京大会事前キャンプ受入れで得たノウハウを市町村等と共有し、キャンプ誘致に意欲のある市町村等との連携体制づくりを進めます。

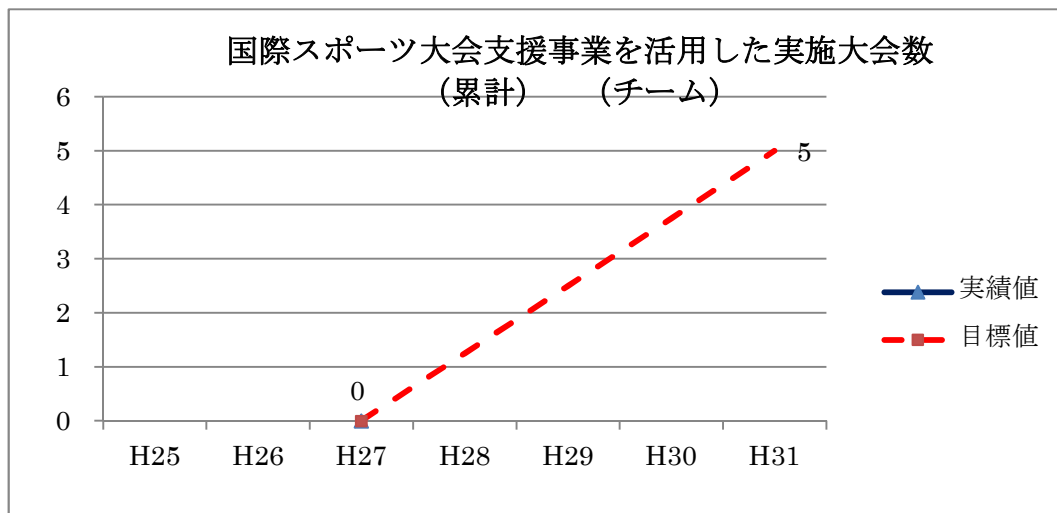
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		国際スポーツ大会支援事業を活用した実施大会数（累計）					（単位：回）	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課	
—	—	—					5		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## 【主な実施事項と成果】

- ・なし（1件交付決定したが、申請取り下げのため実績なし）

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・大規模なスポーツ大会は、数年前に開催決定していることが多く、現時点では、本事業が周知されていないことが考えられます。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・少なくとも3年以上先を見越して、大会開催予定や誘致活動などの情報を積極的に収集し、関係団体に周知を図る必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・昨年度設置したスポーツコンシェルジュを活用して、各競技団体や市町村等における誘致活動等の情報を収集し、本補助金の活用を促進していきます。

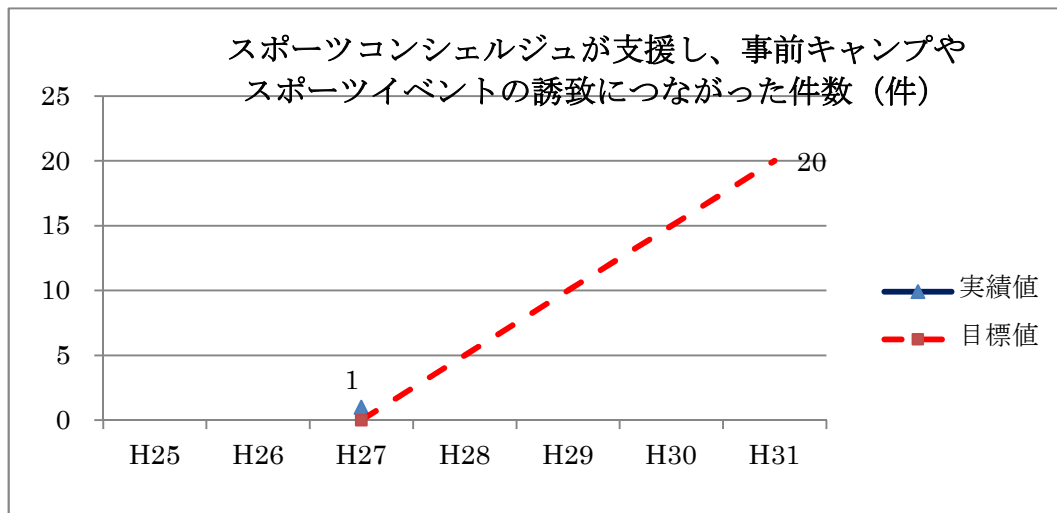
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		スポーツコンシェルジュが支援し、事前キャンプやスポーツイベントの誘致 につなげた件数（累計）					（単位：件）	目 標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 東京オリンピック・パラリンピック推進課	
—	—	— (1)					20		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## 【主な実施事項と成果】

- ・スポーツコンシェルジュが、日本ソフトボール協会及び県ソフトボール協会と連携して、2018年に開催される第16回世界女子ソフトボール選手権大会の誘致に成功しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・大規模なスポーツイベントは数年前には開催が決定されるため、早期に競技団体等から情報を収集することが重要です。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・県内及び国内競技団体等からの情報収集に努めるとともに、誘致に意欲のある市町村等との情報共有・連携を強化することが必要です。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・スポーツコンシェルジュがこれまで培ってきた人的ネットワークを更に活かし、情報収集に努めるとともに、県の支援制度についても周知を図り、誘致活動を進めていきます。
- ・ホームページやリーフレット等の活用により、スポーツコンシェルジュの活動内容や、県内競技施設等の情報を国内外に周知することにより、事前キャンプやスポーツイベントの開催地としての本県の魅力をPRしていきます。

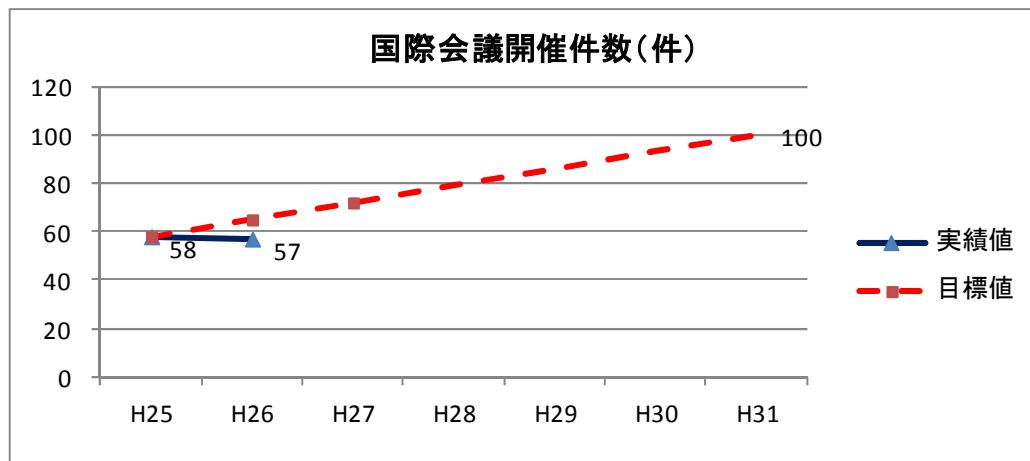
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		国際会議開催件数					目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	
58	57	9月ごろ 判明					100	商工労働部 経済政策課

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		②キャンプ・国際大会・MICEの誘致



## 【主な実施事項と成果】

- ・MICE<sup>1)</sup>については、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB-IC）を中心として、市町村や関係機関との連携により、誘致に取り組みました。平成27年度は、CCB-ICにより、電池技術全般に関する世界最大級の会議である「第57回電池討論会」など国際会議（JNTO基準<sup>2)</sup>）の誘致に42件成功しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・MICEについては、近年、国際的な誘致競争が激化する中で、国内においても各都市でMICE誘致に意欲的に取り組んでおり、国内外における誘致競争が厳しくなっています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持っている方々に、千葉の魅力を戦略的にPRし、本県へのMICE誘致に繋げていく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・MICEの誘致については、MICE関係機関との連絡会議を通じるなどしてCCB-ICをはじめ関係機関との連携の強化を図り、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。

## 【注】

- (1) MICE：企業等の（Meeting）、企業等が行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、イベント・展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字で、多くの集客交流が見込めるビジネスイベントなどの総称です。
- (2) JNTO基準：日本政府観光局（JNTO）の国際会議統計における国際会議の基準（参加者50人以上、参加国3カ国以上、会期1日以上等）です。

28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標 **KPI**）

指標名：		成田空港の航空旅客数					(単位：万人)		目標	担当課																							
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	3,800 以上	総合企画部 空港地域 振興課																								
3,604	3,531	3,794																															
*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。																																	
【関連項目】																																	
戦略	大項目					中項目																											
I						③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化																											
<div style="text-align: center;"> <p><b>成田空港の航空旅客数（万人）</b></p> <table border="1"> <caption>成田空港の航空旅客数（万人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>3,604</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>3,531</td> <td>3,550</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>3,794</td> <td>3,750</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td></td> <td>3,800</td> </tr> </tbody> </table> </div>										年度	実績値	目標値	H25	3,604		H26	3,531	3,550	H27	3,794	3,750	H28			H29			H30			H31		3,800
年度	実績値	目標値																															
H25	3,604																																
H26	3,531	3,550																															
H27	3,794	3,750																															
H28																																	
H29																																	
H30																																	
H31		3,800																															
【主な実施事項と成果】																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>成田空港の航空旅客数は、過去最高を更新しました。</li> <li>平成27年度は、地域振興連絡協議会を通じ、成田空港への新規路線開設の第1便の歓迎イベントを成田空港で実施するとともに、周辺自治体首長による国内線就航先自治体への表敬訪問及び国内線就航先都市におけるPR事業を行い、成田空港の利用促進を図りました。</li> </ul> <p>また、「成田空港活用協議会」と連携・協力して、国内線就航先との交流促進、北関東を始めとした空港利用促進キャンペーン、多様なメディアを活用した情報発信や、ビジネス支援のためのセミナー（2回開催、参加者数225名）などに取り組みました。</p> <p>※【28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興連絡協議会を通じて、PR事業等を実施し、成田空港の利用促進に取り組みます。</li> <li>「成田空港活用協議会」と協力し、これまでに培った就航先との連携を活かした双方向の地域間交流、成田空港に関する情報発信、ビジネス支援のためのセミナー等を実施します。</li> </ul>																																	
【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>東京オリンピック・パラリンピックの開催や、圏央道の延伸などの空港アクセスの改善、LCCの利用者拡大などにより、今後、国内外の多くの人々が成田空港を利用することが予想されます。</li> </ul>																																	
【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地元の理解と協力を得ながら、年間発着回数30万回の早期実現に向け、今後は、東京オリンピック・パラリンピックの開催や圏央道整備等の契機を捉え、成田空港の利用促進を図っていく必要があります。</li> </ul>																																	
【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】																																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「成田空港活用協議会」と連携を密にして、空港を活用した観光振興などに取り組みます。</li> <li>地域振興連絡協議会を通じて、PR事業を実施し、成田空港の利用促進に協力していきます。</li> </ul>																																	

## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		高規格幹線道路の整備率					(単位：%)	目標	担当課																							
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	県土整備部 道路計画課																								
85	85	89					整備率 の向上 を図る																									
*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。																																
【関連項目】																																
戦略	大項目					中項目																										
I	—					③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化																										
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり					⑦主要都市間の交通アクセス整備																										
<div style="text-align: center;"> <h3>高規格幹線道路の整備率 (%)</h3> <table border="1"> <caption>高規格幹線道路の整備率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>85</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>85</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>89</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td></td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td></td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td></td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td></td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table> </div>									年度	実績値 (%)	目標 (%)	H25	85	85	H26	85	85	H27	89	85	H28		85	H29		85	H30		85	H31		85
年度	実績値 (%)	目標 (%)																														
H25	85	85																														
H26	85	85																														
H27	89	85																														
H28		85																														
H29		85																														
H30		85																														
H31		85																														
【主な実施事項と成果】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国や県内各地との交流や連携、さらには県内外と成田のスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道、外環道、東関東自動車道館山線・国道127号富津館山道路の4車線化、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進しました。圏央道については、神崎インターチェンジから大栄ジャンクションまでの約10kmが平成27年6月に開通し、東関東道と常磐道が高速道路で直接つながる新たな広域ネットワークが誕生しました。</li> </ul>																																
【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備については、整備に必要な予算を確保しなければなりません。</li> </ul>																																
【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備については、直轄事業の円滑な進捗を促すため、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、整備促進を国に強く働きかけていくことが必要です</li> </ul>																																
【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、県の重点要望や各期成同盟会の要望活動を通じて高規格幹線道路等の整備促進を国に強く働きかけます。</li> </ul>																																



## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		県都1時間構想					(単位：%)	目標	担当課																							
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	県土整備部 道路計画課																								
71	71	72					76% 以上																									
*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。																																
【関連項目】																																
戦略	大項目				中項目																											
I	-				③成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化																											
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり				⑦主要都市間の交通アクセス整備																											
<p style="text-align: center;"><b>県都1時間構想 (%)</b></p> <table border="1"> <caption>県都1時間構想 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>71</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>71</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>72</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>-</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table>									年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H25	71	-	H26	71	-	H27	72	-	H28	-	-	H29	-	-	H30	-	-	H31	-	76
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																														
H25	71	-																														
H26	71	-																														
H27	72	-																														
H28	-	-																														
H29	-	-																														
H30	-	-																														
H31	-	76																														
【主な実施事項と成果】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国や県内各地との交流や連携、さらには県内外と成田のスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道、外環道、東関東自動車道館山線・国道127号富津館山道路の4車線化、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進するとともに、インターチェンジへアクセスする銚子連絡道路、茂原一宮道路などの地域高規格道路や国道・県道の整備を推進しました。</li> <li>・圏央道の神崎インターチェンジから大栄ジャンクションまでの間が平成27年6月に開通し、達成率が1%向上しました。</li> </ul>																																
【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備については、整備に必要な予算を確保しなければなりません。</li> <li>・また、銚子連絡道路、茂原一宮道路などの地域高規格道路や国道・県道の整備を進めるには、整備に必要な予算を確保するとともに、地元住民の協力を得ながら、事業を推進して行かなければなりません。</li> </ul>																																
【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備については、直轄事業の円滑な進捗を促すため、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、整備促進を国に強く働きかけていく必要があります。</li> <li>・また、銚子連絡道路、茂原一宮道路などの地域高規格道路や国道・県道の整備を進めるには、限られた予算の中で効果的な予算執行に努める必要があります。</li> </ul>																																
【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、県の重点要望や各期成同盟会の要望活動を通じて規格幹線道路等の整備促進を国に強く働きかけます。</li> <li>・また、地域高規格道路や、国道・県道については、今後も早期に供用が見込める箇所に重点投資を図るなど、更に効率的な整備に努めます。</li> </ul>																																

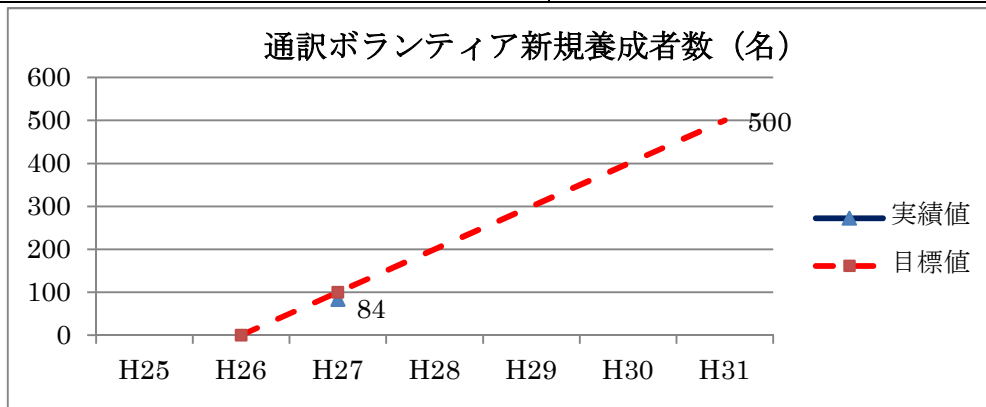
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		通訳ボランティア新規養成者数					(単位：名)	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 国際課	
	—	84					500		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I	—	④バリアフリー化の促進
I	—	⑥外国人受入体制の整備
I	—	⑦国際交流の促進
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり	①国際都市として発展する CHIBA の基盤づくり



## 【主な実施事項と成果】

- 平成 27 年度は、多言語によるコミュニケーション支援体制を整備するため、「通訳ボランティア養成講座」を県内 3 箇所で開催し、英語 57 名、中国語 27 名の計 84 名が修了しました。
- 日常会話程度の語学力のある方を対象に、通訳として身につけるべきマナーや知識の習得と併せて、異文化やオリンピックに対する理解、千葉の特性や魅力に関する知識を深めるとともに、英語と中国語に分かれて、ロールプレイを実施しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- 講座を受講し、通訳ボランティアとして登録いただいた方に実践の機会を提供できない場合、能力やモチベーションを維持・向上できない可能性があります。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- 通訳ボランティアとしての活動の機会を増やすため、国際交流イベントやスポーツ大会、観光地等での案内等、通訳ボランティアの活動機会の情報を関係機関から提供していただく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 公益財団法人ちば国際コンベンションビューローの通訳（語学）ボランティア制度の内容や手続きの流れ等を紹介する文書を作成し、市町村及び県関係機関に周知することにより、活動機会の確保に努めてまいります。

## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		ちばバリアフリーマップ掲載施設数					(単位：箇所)	目標	担当課																							
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	健康福祉部 健康福祉 指導課																								
1,631	1,687	1,671					1,930																									
*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。																																
【関連項目】																																
戦略	大項目					中項目																										
I	-					④バリアフリー化の促進																										
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれるちばづくり					①国際都市として発展する CHIBA の基盤づくり																										
<div style="text-align: center;"> <h3>ちばバリアフリーマップ掲載施設数(箇所)</h3> <table border="1"> <caption>ちばバリアフリーマップ掲載施設数(箇所)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>1,631</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>1,687</td> <td>1,687</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1,671</td> <td>1,740</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>-</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>-</td> <td>1,860</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>-</td> <td>1,920</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>-</td> <td>1,930</td> </tr> </tbody> </table> </div>									年度	実績値	目標値	H25	1,631	-	H26	1,687	1,687	H27	1,671	1,740	H28	-	1,800	H29	-	1,860	H30	-	1,920	H31	-	1,930
年度	実績値	目標値																														
H25	1,631	-																														
H26	1,687	1,687																														
H27	1,671	1,740																														
H28	-	1,800																														
H29	-	1,860																														
H30	-	1,920																														
H31	-	1,930																														
【主な実施事項と成果】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちばバリアフリーマップ<sup>1)</sup>の掲載施設数は、昨年度に比べ、減少しています。</li> <li>・平成27年度は、ちばバリアフリーマップの充実を図るため新たに56箇所の施設を調査し、施設情報の追加を行いました。</li> <li>・既に掲載されている施設にアンケート調査などを実施し、掲載内容について回答をもらい、修正が必要な部分の更新をしました。</li> <li>・ちばバリアフリーマップに掲載されている施設へポスター及びチラシを配布して周知をしました。</li> </ul>																																
【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載施設数の減少は、平成27年度からアンケート調査などを開始した結果、施設が閉鎖していることなどが確認できたため、72箇所の施設を削除したことによるものです。</li> </ul>																																
【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査などにより、施設の閉鎖による掲載施設数の減少が見込まれるため、新たに調査をする施設を増やす必要があります。</li> </ul>																																
【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】																																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちばバリアフリーマップの掲載施設数を増やすため、新たに調査をする対象施設の把握に努めてまいります。</li> </ul>																																

## 【注】

- (1) ちばバリアフリーマップ：車いすを利用している方々をはじめ、視覚障害者、聴覚障害者、高齢者、妊産婦、幼児連れなどが、外出する際に、安心して様々な活動に参加していただけるよう、県内の様々な施設のバリアフリー情報を紹介するホームページです。【<http://www.pref.chiba.lg.jp/pbbfmap/>】

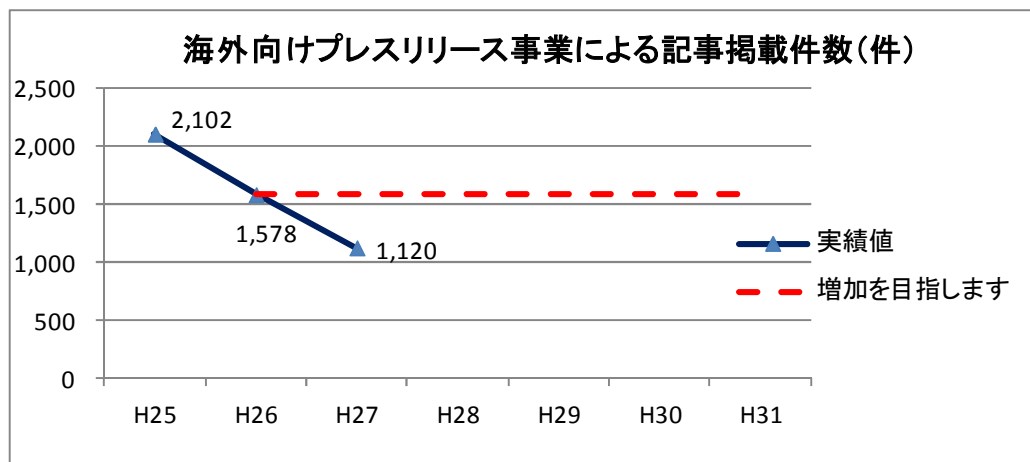
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		海外向けプレスリリース事業による 記事掲載件数					(単位：件)	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 報道広報課	
2,102	1,578	1,120					増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2)“国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力の国内外への発信



## 【主な実施事項と成果】

- ・海外向けプレスリリース事業による記事掲載件数は、昨年度に比べ、減少しています。
- ・海外メディア等に対し、知事トップセールス等によりアジア地域で行った観光プロモーションや農林水産物のPR活動、アクアラインマラソン関係等について情報発信しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・配信先は、台湾、タイ及びマレーシアのほか、北米にも同時配信していますが、北米での掲載件数が大部分を占めていることから、北米での掲載件数が本指標に大きな影響を与えています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・過去の状況を精査し、アジア各国をはじめ、北米においても記事に掲載されうる情報を、適時的確に配信していく必要があります。
- ・現在の配信先に加え、他国にも情報発信を拡大していく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・知事トップセールス等によりアジア地域で行う観光プロモーションや農林水産物のPR活動等のほか、千葉県の新たな魅力についても、プレスリリース配信サービスを利用して、海外メディアに随時情報発信を行っていきます。
- ・配信先をアジア及び北米のほか、欧州にも拡大を図っていきます。

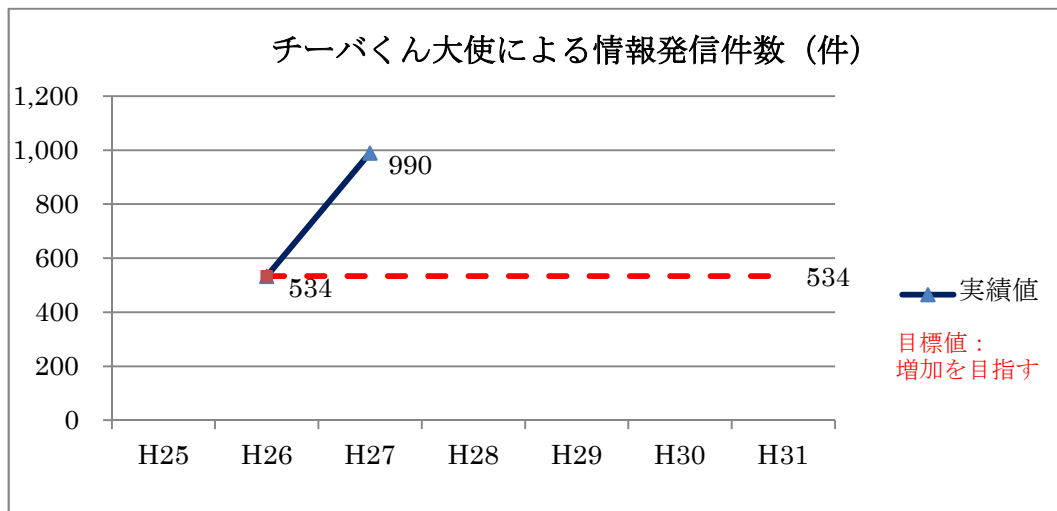
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		チーバくん大使による情報発信件数（単位：件）					目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 国際課
	534	990					増加を 目指す	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I	—	⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力の国内外への発信



## 【主な実施事項と成果】

- 平成27年度は、県内在学の留学生等の外国人20名を「チーバくん大使」として任命し、本県の魅力を母国語でSNSにより発信してもらう「草の根情報発信推進事業」を実施しました。
- 4回の県内ツアー等を通じて本県の魅力について990件の情報が発信され、反響コメントは35,601件寄せられました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- 「チーバくん大使」が本県の魅力を感じられない場合、SNSにより発信しようとするモチベーションを維持できない可能性があります。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- 「チーバくん大使」に本県の観光地や施設等を訪問・体験してもらい、観光や食文化を含めた本県の魅力を感じていただく場を提供する必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 4回の県内ツアー等を通じて、「チーバくん大使」に本県の魅力を体験してもらうとともに、発信件数等を丁寧にフォローしてまいります。

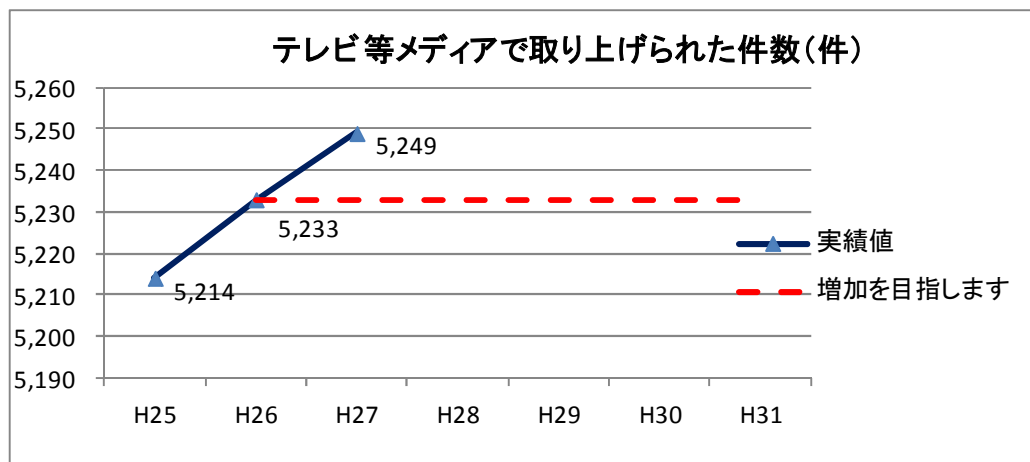
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		テレビ等メディアで取り上げられた件数					(単位：件)	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	総合企画部 報道広報課	
5,214	5,233	5,249					増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
I		⑧戦略的な千葉の魅力発信
II	(2)“国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり	⑤千葉の様々な魅力の国内外への発信



## 【主な実施事項と成果】

- ・「テレビ等メディアで取り上げられた件数」は、昨年比で増加しております。
- ・県のイメージアップや観光客の増加、県産農林水産物の販路拡大、企業誘致等を図るため、知事が国内外のセールスプロモーションや地域のイベント、各種メディアに登場することによって、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に発信しました。
- ・首都圏を主な対象として、在京キー局のテレビ番組（フジテレビ「千葉の贈り物 まごころ配達人」）やラジオ放送（TBSラジオ「千葉ドリーム もぎたてラジオ」）、新聞広告、交通広告等を活用し、千葉の魅力を発信しました。
- ・千葉県PRマスコットキャラクター「チーバくん」を活用した各種イベントへの参加（チーバくんキャラバン隊の派遣198件等）や、チーバくんキャラバン隊を首都圏以外の遠隔地のイベント（北海道、佐賀県）に派遣する等、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に印象づけました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・テレビ・ラジオ等の視聴率、新聞・雑誌等の購読者数の状況により、放送・掲載等の機会が減少していくことが考えられます。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・今後、さらに「テレビ等メディアで取り上げられた件数」を増加させるには、テレビの多チャンネル化（衛星放送等）の対応が必要になると考えられます。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・知事のトップセールスや各種メディアを通じたPR活動を戦略的に展開し、本県の魅力を国内外に発信するとともに、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物などの千葉県の魅力を積極的に発信します。

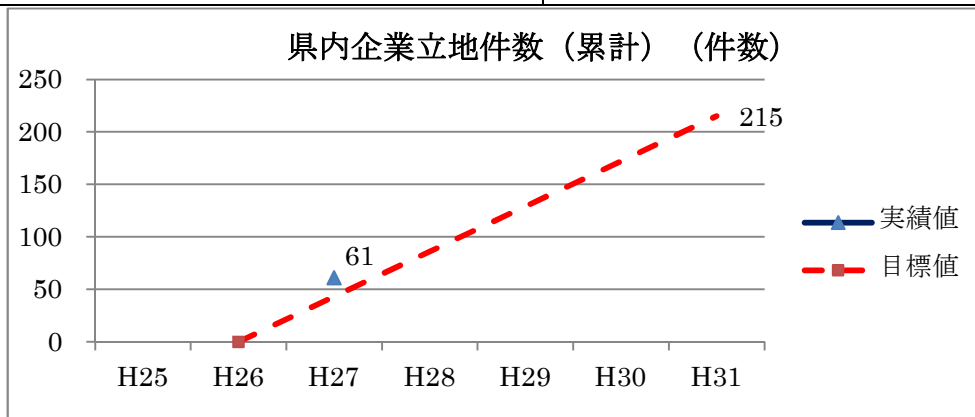
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		県内企業立地件数（累計）					（単位：件）	目 標	担当課
25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	31年	商工労働部 企業立地課	
—	—	61					215		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
Ⅱ	（1）“一人ひとりの働きたい”がかなう千葉づくり	①地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進



## 【主な実施事項と成果】

- ・東京と大阪にて企業誘致セミナーを開催し、261名の参加者に対して、知事が本県の立地環境をPRしました。
- ・国内外企業へのアンケートや電話相談等を踏まえ、積極的な企業訪問（1,365件）を行いました。
- ・各国大使館等を対象としたインバーストメントツアーを実施し、知事が本県の立地環境をPRしました。
- ・本社機能移転を推進し、地域活性化を図る地域再生計画を10月に策定し、3月に2件の認定を行いました。
- ・造成中の2工業団地の視察ツアーを実施し、東京からの近接性などをPRしました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・誘致可能な産業用地が減少していくことが想定されます。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・産業用地の情報収集を強化するとともに、県内立地企業への補助金制度の周知強化が必要となります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・造成中の2工業団地への誘致を強化していきます。
- ・企業誘致セミナーを開催し、本件の立地環境をPRしていきます。
- ・地元市町村や金融機関との連携を強化し、補助金制度の周知と産業用地情報の収集を行います。
- ・ワンストップサービスを行うちば投資サポートセンターと連携し、外資系スタートアップセンター（FaSuC）等への外資系企業の誘致を推進していきます。
- ・空き公共施設等へのIT・ベンチャー企業等への誘致を市町村と連携し、推進していきます。

## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		「茂原にいहार」「袖ヶ浦椎の森」 工業団地の分譲宅地の分譲済面積					(単位：ha)	目標	担当課																							
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	商工労働部 企業立地課																								
		—		整備完了 分譲開始予定			35																									
*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。																																
【関連項目】																																
戦略	大項目				中項目																											
Ⅱ	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり				①地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進																											
<div style="text-align: center;"> <p>「茂原にいहार」「袖ヶ浦椎の森」工業団地の 分譲宅地の分譲済面積 (ha)</p> <table border="1"> <caption>「茂原にいहार」「袖ヶ浦椎の森」工業団地の分譲宅地の分譲済面積 (ha)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (ha)</th> <th>目標値 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>0</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>0</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>0</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>「茂原にいहार工業団地」の分譲面積は約19ha、「袖ヶ浦椎の森工業団地」の分譲面積は約32haであり、2団地合計の分譲面積は51haであり、平成29年度中に整備を完了し、分譲を開始する予定であり、33年度までに分譲を完了する計画である。</p>									年度	実績値 (ha)	目標値 (ha)	H25	0	0	H26	0	0	H27	0	0	H28	0	10	H29	0	20	H30	0	30	H31	0	35
年度	実績値 (ha)	目標値 (ha)																														
H25	0	0																														
H26	0	0																														
H27	0	0																														
H28	0	10																														
H29	0	20																														
H30	0	30																														
H31	0	35																														
【主な実施事項と成果】																																
「茂原にいहार工業団地」と「袖ヶ浦椎の森工業団地」については、平成26年度に前倒して着手した仮設道路工事、地盤改良工事等を完了し、整地工事等に本格的に着手しました。また、早期分譲を図るため、企業訪問や現地見学会の開催等の誘致活動に取り組みました。																																
【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】																																
【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】																																
【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】																																
「茂原にいहार工業団地」と「袖ヶ浦椎の森工業団地」については、平成27年度に着手した整地工事を完了し、道路等の公共施設の整備工事に着手するとともに、次年度の分譲開始に向け、企業訪問や現地見学会の再度開催等、積極的に誘致活動に取り組みます。																																

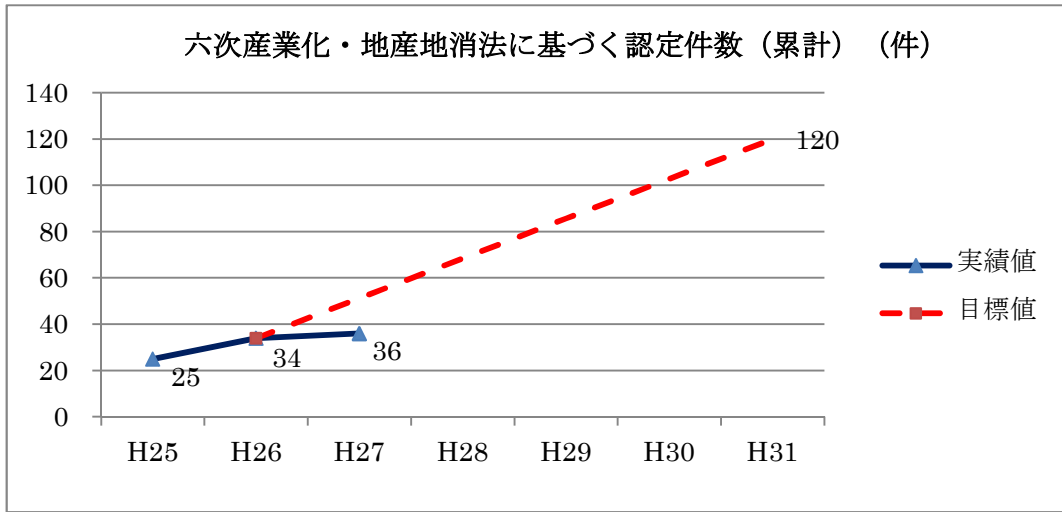


28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		六次産業化・地産地消法に基づく認定 件数（累計）					（単位：件）	目 標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	農林水産部 流通販売課	
25	34	36					120		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】		
戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	②力強い農林水産業の確立



【主な実施事項と成果】

- ・農林漁業者が自ら生産から加工・流通や販売まで携わり経営の多角化を目指す「6次産業化」を支援するため、千葉県6次産業化サポートセンターを平成27年度も引き続き設置し、プランナー派遣による六次産業化法の総合化事業計画の認定支援や研修会・ワークショップ・異業種交流会などを開催しました。この結果、新たに2件の総合化事業計画が認定され、平成26年度に認定を受けた1件に対し農家レストランの整備に対する助成を行いました。また、千葉の郷土料理である性学もち、漬物等の加工品開発等の取組を支援しました。
- ・6次産業化を実践・支援する人材を育成するため、農業法人、市町村、JA、県出先機関等の担当者等を参集した研修会を3回開催し、のべ47人が参加しました。
- ・農林漁業者を対象とし、6次産業化に必要なスキルが取得できる連続した講座を4回開催し、のべ147人が参加しました。また、ワークショップや農林漁業者等と他産業者とのマッチング、異業種交流、販路開拓等を目的とした交流会を3回開催し、のべ199人が参加しました。

【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・総合化事業計画の制度ができる以前から6次産業化を志向していた農林漁業者は制度発足後3年程度で認定を受けており、制度発足から5年が経過し、新たに6次産業化を志向する農林漁業者が少ないことが認定件数が増加しない要因となっています。

【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・新たに6次産業化に取り組む事業者の発掘を推進し、6次産業化に取り組む意向のある農林漁業者等に対しては個別相談対応も含めて重点的に支援していく必要があります。

**【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】**

- ・千葉県6次産業化サポートセンターの設置・運営を通して、総合化事業計画の認定推進及び認定者に対するフォローアップを行います。支援に当たっては、農林漁業者等が求めるニーズに応じたプランナーを派遣し、市町村や国等とも連携したサポート体制作りを行います。また、新たに6次産業化に取り組む農林漁業者を増やすとともに、商品開発取組数を増やすため、交流会の開催や、地域の素材を活用した商品づくりやサービス開発など地域の実情を踏まえた内容の地域段階での研修会の新たな開催、さらに6次産業化を発展的に目指す農林漁業者を対象としたビジネス講座・インターンシップ研修等による段階的な支援を実施します。

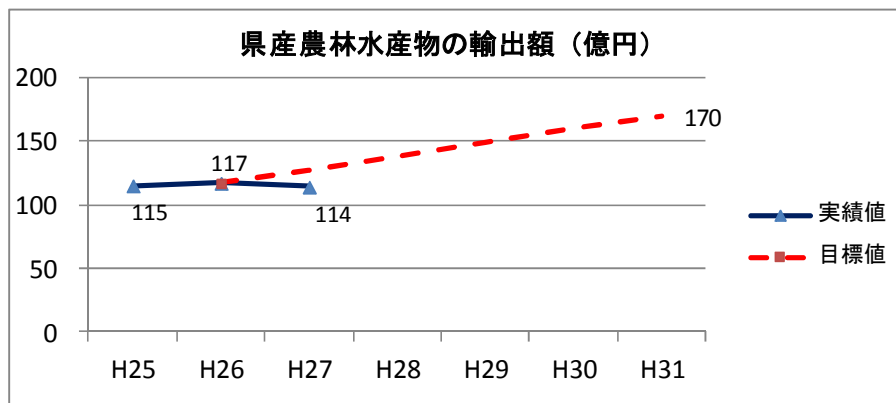
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		県産農林水産物の輸出額					(単位：億円)		目標	担当課
25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	31年	170億円以上	農林水産部 流通販売課	
115	117	114								

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
Ⅱ	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	②力強い農林水産業の確立



## 【主な実施事項と成果】

- ・輸出事業に取り組む企業・団体が構成される「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を支援し、27年度は香港、マレーシア、シンガポールでの見本市に出展しました。
- ・経済成長が著しく、高所得者が増えているタイのバンコクやマレーシア・クアラルンプール等で、梨やサツマイモなど県産農水産物のPR活動を行いました。このような海外でのPRの成果としては、知事のトップセールスを契機として、タイやマレーシアへの県産農産物の輸出が始まり、その後も継続的にプロモーションを実施したことにより、梨やサツマイモの輸出が定着してきていると思われます。さらに、原発事故による輸入規制を行っている香港、台湾等において、外務省と連携し風評被害の払拭に向けたPR活動を行いました。
- ・生産者団体等による主体的な輸出の取組に対して助成を行い、県産農産物の輸出を推進しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・これまで本県農林水産物の輸出額に大きく寄与していた植木について、平成27年は中国での需要低迷等により輸出額が大きく減少し、農林水産物全体の輸出額の伸びが停滞しています。
- ・海外への農林水産物輸出は重要な販路の一つですが、東日本大震災以降、複数の国・地域で輸入規制が継続して措置されています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・TPPの発効や輸入規制の状況を受けて、諸外国における食品の最新の食品における輸入規則や市場動向を把握するとともに、貿易実務ノウハウの情報提供等をはじめとした既存の輸出支援に加え、これまで県内で事例のない新たな国や品目での輸出の取組に挑戦する生産者や輸出を志向する若手農業者への支援を強化することが有効です。
- ・販売促進活動については、既存の取組に対するフォローアップ及び継続的な対応に加え、新たな国の開拓も視野に入れた取組が必要です。
- ・県産農林水産物の輸出を一層拡大するためにも、台湾等で未だ続く輸入規制措置の解除に向けた取組が極めて重要です。

**【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】**

- ・生産者団体等による主体的な輸出の取組に対し、より積極的に支援します。
- ・県産農林水産物・食品の輸出事業の核となっている「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を継続的に支援します。
- ・トップセールスを行ったタイ、マレーシアでの県産農水産物のPR活動を継続するとともにシンガポール等新たな国・地域でのPR活動を進め、輸出の拡大を図ります。
- ・原発事故による輸入規制を行っている一部の国・地域に対して、引き続き、的確な情報の把握と業者等への情報提供を行います。同時に、放射性物質に関連し、県産農林水産物の輸入を規制している国・地域に対し、引き続きあらゆる機会を捉えて安全性をPRし、速やかな規制緩和を目指します。
- ・新たな国を含むバイヤーの招へい等を通じ、輸出につながる産地とのマッチングを推進します。

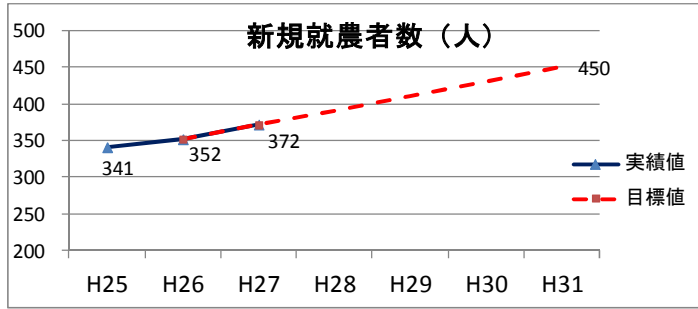
28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		新規就農者数					(単位：人)	目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	農林水産部 担い手支援課	
341	352	372					450		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】

戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	②力強い農林水産業の確立



【主な実施事項と成果】

- ・ 農業関係高校等 15 校と連携して 769 名の生徒に先進農家視察等の啓発活動を実施したほか、千葉県立農業大学校等で就農希望者 25 名に 6～12 か月間の長期研修を実施しました。
- ・ 県内 13 か所に新規就農相談センターを設置し、467 件の就農相談に応じたほか、就農相談会では 226 件の相談に対応しました。
- ・ 新規漁業就業者を確保するため、全国漁業就業者フェアや県が実施した水産業就業相談会でのマッチングに取り組むとともに、インターンシップを実施しました。

【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・ 新規就農希望者が就農定着するためには、農地・機械・施設等の経営基盤の確保の他、技術の習得等により所得を確保することが必要です。
- ・ 水揚の低迷により漁家経営が厳しいこと、漁労技術の取得に時間を要することから、新規の就業者が伸び悩んでいます。

【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・ 今後も農業関係高校の生徒等に向けて就農啓発活動を行い、就農意欲を喚起することが必要です。また、県内で新たに就農しようとする方や既に就農している方の定着が促進されるよう、長期専門的研修の機会を確保することが必要です。
- ・ 漁業については、地域の漁業生産の母体となる漁協の組合員の高齢化や後継者不足などが進んでいることから、漁協の経営基盤の強化が必要です。併せて、小型漁船漁業など新規就業者が少ない漁業については、漁業技術の習熟だけでなく、新規就業者の定着促進に向けた対策を検討する必要があります。

【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・ 農業を学ぶ高校生等に対して、就農意欲を啓発するため、農業関係学校等と連携して先進農家視察等を実施するほか、千葉県立農業大学校等で就農希望者に実践的な長期間の研修を実施します。
- ・ 漁業就業者の確保・育成を図るため、漁協と連携して就業希望者とのマッチングやインターンシップを実施するとともに、特に小型漁船漁業に関しては、漁労技術研修のため、実施機関に対して助成するなど対策を講じます。

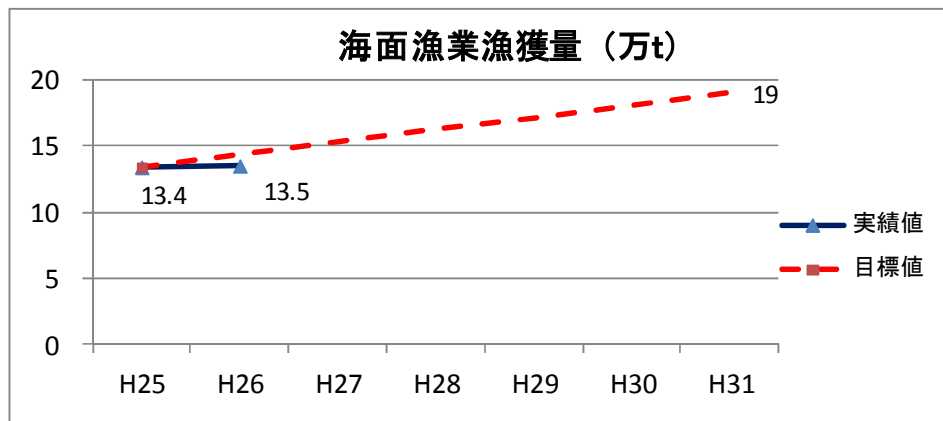
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		海面漁業漁獲量					(単位：万t)		目標	担当課
25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	31年	19	農林水産部 水産課	
13.4	13.5									

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	②力強い農林水産業の確立



## 【主な実施事項と成果】

- ・地域の関係者が一体となって、漁業経営の収益力向上に繋がる具体的な取組「浜の活力再生プラン」の策定を進め、県内4地区において8プランが国の承認を受けました。また、TPP関連政策大綱に基づく国施策（平成27年度国補正予算）に関して、事業実施の前提となる「浜の活力広域再生プラン」の策定に向けた委員会を立ち上げました。
- ・水産資源の維持・増大を図るため、資源管理型漁業を推進するとともに、アワビ等の有用魚介類の種苗放流や外房地区での魚礁設置等を行いました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・水産資源の減少や魚価の低迷に加え、漁業従事者が減少しています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・水産資源の適切な管理や有用魚介類の種苗放流等の推進、漁業・養殖業の省力化・低コスト化につながる生産体制づくり、付加価値の向上などにより、水産業の生産力を向上させることが必要です。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

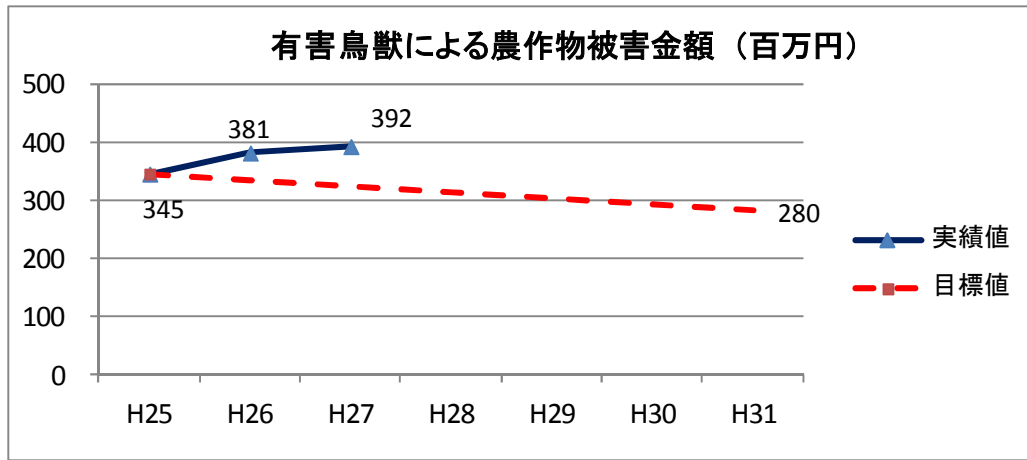
- ・資源管理型漁業や種苗の生産・放流等の推進とともに、「浜の活力再生プラン」に基づく施設整備等の取組を支援します。また、各地域での新たな加工品やブランドづくりの取組の掘り起こしを実施し、支援します。

28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		有害鳥獣による農作物被害金額（単位：百万円）					目 標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	農林水産部 農地・農村 振興課
345	381	392					280百万円 以下	

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

【関連項目】		
戦略	大項目	中項目
Ⅱ	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	②力強い農林水産業の確立



【主な実施事項と成果】

・県では、イノシシなどの有害鳥獣対策として市町村が実施する有害鳥獣捕獲事業や防護柵（13市町で152km）の設置に対する助成を行うとともに、農村集落が集落ぐるみで行う捕獲・防護・生息環境管理の総合的な取組を支援する事業を7集落において行いました。選定された集落では、住民の意識向上が図られ、集落が一体となって有害鳥獣対策に取り組む体制が整備されました。また、捕獲の担い手を確保するため、わな免許の新規取得者に対して市町村と協調して支援しました。

【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

・有害鳥獣による農作物被害の半数は、イノシシによるものであり、その被害防止対策として、県では、防護柵の設置や捕獲の強化等に取り組んでいます。しかし、個体数の増加や生息域の拡大などに対策が追い付かず、被害金額の減少に至っていません。

【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

・有害鳥獣による農作物の被害は依然として深刻な状況であることから、防護柵の設置、捕獲の強化及び捕獲の担い手の確保、そして生息環境管理など一体的かつ継続的な取組が必要です。

【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

・有害鳥獣による農作物被害防止を図るため、防護柵設置の要望に対応するとともに、有害鳥獣捕獲の推進、そして生息環境管理などの地域ぐるみの様々な取組を支援します。

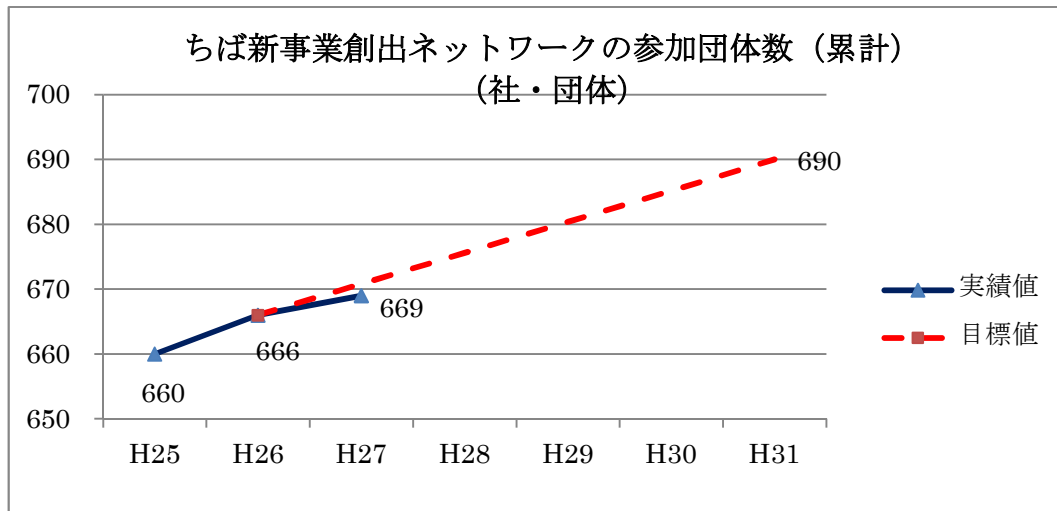
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		ちば新事業創出ネットワークの参加 団体数（累計）					（単位：社・団体）	目 標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	商工労働部 産業振興課	
660	666	669					690		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
Ⅱ	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	③未来を支える新産業等の振興



## 【主な実施事項と成果】

- 産学官の連携による研究開発を支援するため、千葉県産業振興センターに研究開発コーディネーターを5名設置しました。また、企業相互間、企業・大学間の共同研究のためのネットワークの形成促進に向けて、セミナーや見学会などを6回開催し、350名の参加がありました。
- 千葉県産業振興センターでは、研究開発コーディネーターが、新製品・新技術の研究開発を目指す県内企業からの相談に対応しました。また、国などの公募事業を活用して50件の研究開発事業を推進しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- 多様なニーズに対応した新製品・新技術の開発を行うため、企業は最適な連携先を見つける必要に迫られていますが、問題が個別化・複雑化し、連携先の選定が難しくなってきたことが要因と考えられます。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- 個別化・複雑化した問題に適切に対応し、新製品・新技術開発を進めていくためには、産学官連携の促進が有用であることから、企業相互、企業・大学間をコーディネートする役割が今後ますます重要となります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 産学官の連携による研究開発を促進するため、引き続き研究開発コーディネーターを設置するとともに、連携促進の機会として、新たな社会ニーズに応じた魅力あるセミナーや企業経営の参考となるような見学会を開催します。また、「ちば新事業創出ネットワークの参加団体数」を増やすよう、展示会等の機会を捉えた新規企業の発掘や企業訪問による企業ニーズの把握に努めるとともに、国等の挑戦的資金の獲得を伴走支援し、産・学・官連携による研究開発の促進を図ります。



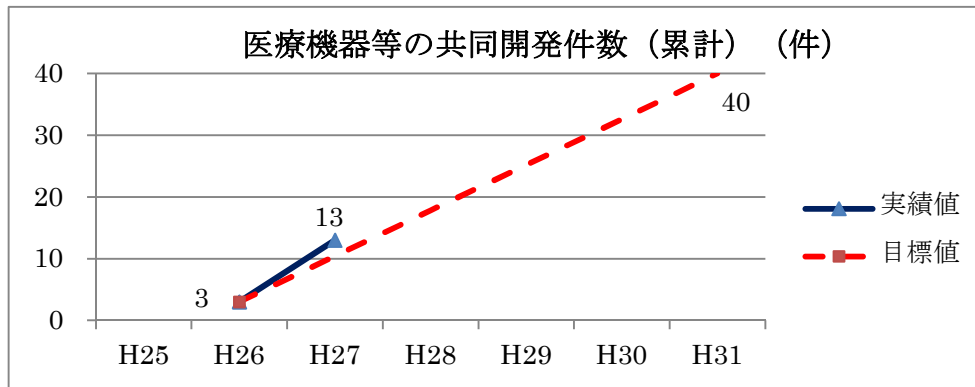
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		医療機器等の共同開発件数（累計）					（単位：件）	目 標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	商工労働部 産業振興課	
	3	13					40		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	③未来を支える新産業等の振興



## 【主な実施事項と成果】

- 平成 27 年度は県内ものづくり中小企業の健康・医療分野への新規参入を促進するため、臨床現場とものづくり現場の双方を熟知した医工連携コーディネーターを 6 名配置し、法規制等に関する相談・アドバイスをを行うとともに、新規参入支援セミナーを実施し、38 名が参加しました。
- 医工連携による製品開発を支援するため、県と国立がん研究センター、千葉大学、千葉県産業振興センターが連携し、医師のニーズと中小企業のシーズを結び付ける場を提供するプロジェクトである「C-square」を平成 26 年度から始動させ、このプロジェクトから平成 27 年度は 3 件の共同研究案件が生まれました。
- 企業連携による製品開発を促進するため、医療機器メーカーと県内ものづくり中小企業を結び付ける商談会や個別マッチング等を実施し、平成 27 年度は 2 件が共同研究化・事業化に繋がりました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- 健康・医療ものづくり産業の育成・振興に向けて、既存の医療機器メーカーに加え、高い技術を有する県内ものづくり中小企業の新規参入を進め、医療機器・周辺機器開発に取り込むことが有効ですが、医薬品医療機器法（旧薬事法）をはじめとした法規制や業界特有の商慣習、新規の設備導入の負担が大きい等の問題があります。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- 医工連携コーディネーターの配置に加え、新規参入支援セミナーを実施したところですが、医療機器・周辺機器の開発期間が他の機器よりも長く、設備投資の負担も大きいことに鑑み、単発的な支援では無く、今後とも企業ニーズに沿った形で、継続的に実施していく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- 専門人材の活用等を通じたものづくり中小企業支援を実施するとともに、医療機関・大学等や県内外の医療機器メーカーとの接点を強め、医療機器開発の質・量の双方を高めていくことで、より多くの共同研究化・事業化を目指していきます。

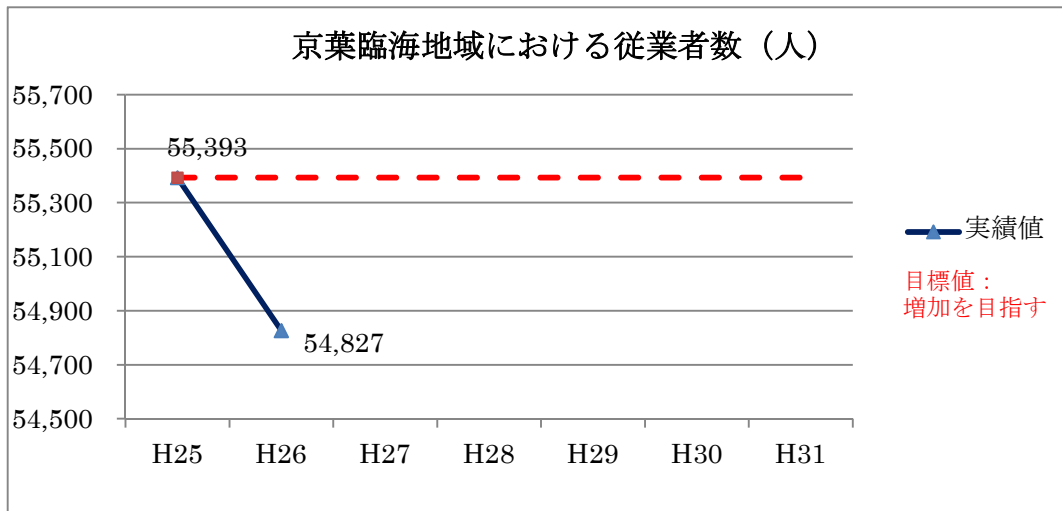
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		京葉臨海地域における従業者数					(単位：人)	目標	担当課
25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	31年	商工労働部 産業振興課	
55,393	54,827	3月頃 判明					増加を 目指す		

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	④京葉臨海コンビナートの競争力強化



## 【主な実施事項と成果】

- ・コンビナート規制緩和検討会議による規制合理化の検討を実施しました。
- ・基盤業務共同化に向けた検討を実施しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・設備投資の際の保安・環境等の規制への対処が負担となり、設備投資を阻害する一因となっています。
- ・コンビナート立地企業では、団塊世代の大量退職などに伴い、安全管理に関する人材の能力向上・確保等の課題を抱えています。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・コンビナート事業に係る規制改革の検討と国への働きかけ等、新たな投資を促す環境づくりに向けて、県、地元市、立地企業が一体となった取組を進めていくことが必要です。
- ・人材育成等の基盤業務について企業間連携による共同化の促進に向けた検討を進める等、中小関連企業も含めた事業所の負担軽減や新規事業展開に資する環境づくりを更に進めていく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・引き続き、規制緩和に関する国への働きかけや、コンビナート立地企業が共同で参加できる教育プログラムの運用等、事業所の負担軽減や新規事業展開に資する環境づくりを進めていきます。

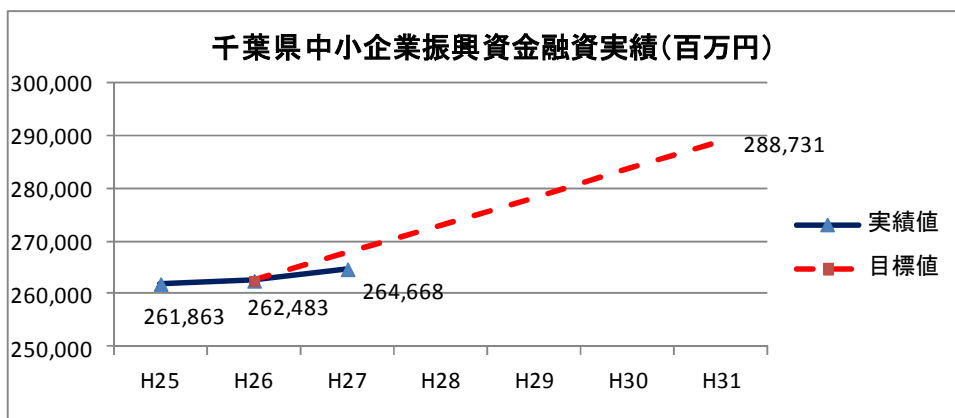
## 28年度 千葉県地方創生「総合戦略」推進管理シート（数値目標・KPI）

指標名：		千葉県中小企業振興資金融資実績					（単位：百万円）		目標	担当課
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	31年度	288,731	商工労働部 経営支援課	
261,863	262,483	264,668								

\*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。

## 【関連項目】

戦略	大項目	中項目
II	(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり	⑤中小企業の活性化支援



## 【主な実施事項と成果】

- ・融資実績は、平成26年度と比較して約0.8%増加しました。
- ・市中金利の動向を踏まえ、長期資金の融資利率を前年度から0.1%引き下げました。
- ・設備購入のための利用額を設備価格の90%以内とする制限をなくすとともに、機械設備及び車両等を担保として活用する融資メニューを平成27年7月に創設し、資金調達手段の多様化により、積極的な設備投資を支援しました。

## 【要因（目標の達成等を阻害している要因、及び、将来、目標の達成等を阻害する要因）】

- ・融資実績については、経済情勢や県制度融資取扱金融機関の融資動向に大きく左右され、平成27年度の融資実績は微増しました。

## 【課題（要因を踏まえ、目標の達成等に必要なこと）】

- ・借り手である中小企業と貸し手となる金融機関の双方にとって、より利用しやすい制度となるよう、制度を見直していく必要があります。

## 【取組方針（課題を踏まえた、より具体的な取組）】

- ・中小企業の資金ニーズや国の制度改正を踏まえ、融資利率の改定や制度の見直しを検討します。
- ・引き続き、パンフレットをより分かりやすくし、ホームページを充実させるとともに、商工団体の経営指導員向け講習会を実施し、制度の更なる周知に努めます。